

棚倉町

TANAGURA TOWN

埋蔵文化財

7 胡麻沢古墳 珍しい骨鏃を発見

山林の造成中に発見されました。発掘調査では埋葬のための箱式石棺が2基(南棺・北棺)並んで発見され、それぞれの棺内に男女2対ずつの人骨が納められていました。



石棺発掘状況

副葬品は北棺から直刀1本、鉄鏃10本、骨鏃(鹿骨製)25本が出土しています。



骨鏃

8 崖ノ上遺跡 棚倉藩知事、阿部正功が調査

縄文時代後期から晩期の遺跡の後に、弥生時代中期になって墓地(再葬墓)が造られました。平安時代の集落跡も確認されています。

弥生中期の土器は文様の特徴から「棚倉式土器」と呼ばれています。



弥生土器(ひさご型)



弥生土器(小型壺)



弥生土器(大型壺)

9 松並平遺跡 久慈川上流域最大級の集落跡

国道118号線の工事に伴う調査で古墳時代から奈良・平安時代の竪穴式住居跡49軒、平安時代の掘立柱建物跡14棟が確認されました。そのなかでも、平安時代に入ってから住居が急増します。土器では墨書土器が102点、関東地方から持ち込まれた土器もありました。



発見された住居跡



出土遺物

10 流廃寺跡 (県指定史跡「流の廃堂跡」)

平安時代の山岳(山林)寺院跡で、建物跡の平場から土器や瓦、金銀象嵌鉄剣(県指定重要文化財)が出土しています。

11 棚倉城と追手門跡 関東と東北の境目の城、8家16代の藩主が居城した近世城郭・大土塁と野面積石垣、深い堀が特徴

元和8年(1622)常陸国古渡から棚倉に入封した丹羽長重は、寛永2年(1625)この地に鎮座していた近津明神(馬場都々古別神社)を現在の馬場に遷宮して、その境内地に輪郭式(本丸・二ノ丸・三ノ丸)の平城である棚倉城を築城しました。長重の父は織田信長の家臣で安土城築城の責任者を務めた丹羽長秀です。試掘調査で城の正門である追手門の礎石が発見されました。



棚倉城跡



発見された礎石

追手門復元想定図

慶応4年(1868)の戊辰戦争によって城下の一部と共に焼失しました。

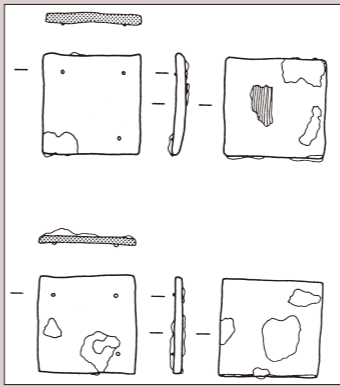
脇戸と脇塀を持つ高麗門と呼ばれる門です。

官道と駅家

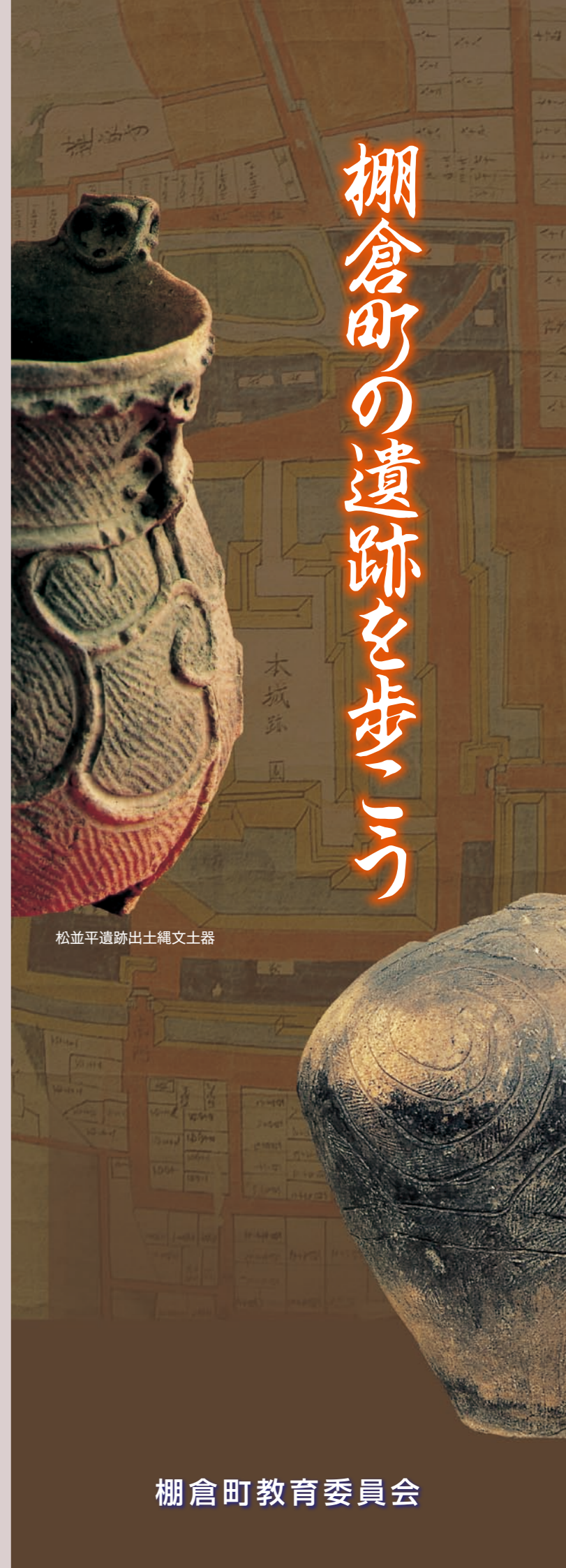
平安時代の初め、東白川地方の久慈川地域には官道(国道・駅路)が通り、長有と高野の駅家(馬を備えて、緊急を要する使用者に馬と食料を提供する)が置かれていました。このことは『日本後記』弘仁2年(818)に記されています。この内容は陸奥国にあった海道の駅家を廃止して、かわりに内陸にあった東山道の松田駅から、常陸国府を結ぶための連絡路として官道が開かれました。その理由は緊急事態を伝えるためとあります。松並平遺跡に見る平安時代に入ってから集落の拡大は、駅家新設の時期と重なります。駅家業務にたずさわる人達が住んでいた駅戸とする見方ができます。松並平遺跡からは帯金具も出土しています。



駅路図



帯金具(役人が身に着けたベルトの金具)



棚倉町の遺跡を歩こう

松並平遺跡出土縄文土器

〒963-6123 福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松58

棚倉町教育委員会生涯学習課

TEL 0247-33-0111

監修 日本考古学協会々員 井上國雄

棚倉町教育委員会